

町政を問う!!

11 議員が質問・提案を

町民館事業

同和問題への取り組みは

一般施策を活用し把握する



おくもと 哲也 議員

町民館事業は、同和地区とその周辺地域の生活上の課題解決に向けた地域福祉推進のための事業であり、地域の生活実態と課題を随時把握していく必要があると考える。住民のニーズを反映した事業を毎年積み上げていく。

問 2001年度より町民館白書を作成していないが、今後、作成する計画はないか。また、町民館事業の同和問題を始め、人権問題を解決するための各種事業とは。

答 藤本 住民課長

白書は、過去2年から10年の間隔で作成されてきたが、地対財特法が失効したことに伴い、同和地区だけを対象とした白書の作成は行っていない。今後も白書の作成は予定していない。

問 公営住宅、改良住宅の中期的な高台移転について、早急な取り組みを問う。また、国土強靱化計画の中で、住宅問題に関する条例の制定をすべきでは。

答 森田 まちづくり課長

厳しい財政運営状況のなか、公営改良住宅の現状を十分に承知している。今後も、早期に高台移転等への取り組みができるよう努めていく。強靱化計画のなかで住宅問題の高台移転は非常に効果の

道路問題

緊急車両の 通れる道を 確保に努める

道路幅員の 確保に努める

高い施策ではあるが、市町村の財政負担が大きいため、被災前の移転に使い易い制度とする必要がある。国、県に対して高台移転の財政支援制度の拡充を強く要望していく。条例についても、今後の取り組みの状況により、検討していく。

問 町内には緊急車両すら入ることができない地域があるがその対処法は。また、町独自で小型救急車の導入は考えていないか。

答 森田 まちづくり課長

町内には、狭い町道等がたぐささんある。日常生活の利便性の向上や、災害に備え、各種補助事業を活用して道路整備に努めている。各地区より道路整備の要望が多く、町としても整備工事、改修をして



町民館事業の拠点施設 佐賀町民館

道路幅員の確保に努めている。

答 松本 情報防災課長

現在の救急車は、高度救命資材の積載により大型化している。小型の救急車にすれば高度救命装置の積載ができない。時間短縮の有利性よりも、その他の不利性の方が優ると思う。また、現在の黒潮消防署の人員体制でも対応が困難になる。町内には、家の前まで入ることができない箇所があるというのは、大きな問題であり、今後、検討していく必要がある。